

黒田家譜と「福岡」

備前福岡と黒田氏の関係を示すもの

1月からNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」が始まります。主人公は戦国時代に天下統一を果たした豊臣秀吉の名軍師として知られる黒田官兵衛孝高（如水）。今回の瀬戸内発見伝では、黒田家と瀬戸内市の関わりについて紹介します。

命を受け、さまざまな関係資料や記録を収集し、黒田家の正式な歴史書として『黒田家譜』を編さんしました。

黒田家譜に記された福岡

黒田家代々の事績を記した部分から、「福岡」に関する記述を紹介します。

黒田家代々の歴史をまとめた『黒田家譜』という書物があります。

『黒田家譜』は、江戸時代の前期、元禄元（1688）年に完成しました。編集にあたったのは、黒田家に仕えていた儒学者・貝原益軒です。益軒は、藩主黒田光之の

黒田の一族加地・飽浦などいふ士有りし故、その好に隨いてここに來り。
○重隆
永正五年戊辰の歲、江州黒田の邑に生まれ、いとけなふして父に従ひ、備州福岡にうつらる。後に浦上村宗備前國中をおかし持めし時、重隆その難をさけて、播州飾東郡姫路に移らる。
次に、重隆の子、職隆（官兵衛の父）が備前福岡で生まれたという部分。
○職隆
大永四年甲申の歲、備前国邑久郡福岡の城に生る。（中略）後に父と共に播州姫路に移り住り。（以上『黒田家譜』巻之一）
最後に、官兵衛の子・長政が、領地として与えられた筑前国（福岡県西部）に城を築



福岡城跡（提供：福岡市）



福岡城二ノ丸多聞櫓（提供：福岡市）

き、先祖の地である備前福岡にちなんで「福岡城」と名づけたという部分。
○長政
（慶長六年）
名嶋より二里坤の方、那珂郡鞆園村の近所、福崎といふ処、如水・長政の心に叶ひし故、城地を見立て経営して、山に拠て城を築き郭をかまへ、四方に濠をほり廻し、要害をかたくし給ふ。城の名を福岡と号す。これは長政の先祖、黒田左近大夫高政・下野守重隆父子共に、備前国邑久郡福岡の里の人なれば、その本を思ひ出して先祖の住所の名を用て名づけ給ふ。（『黒田家譜』文獻出版）

以上のように、黒田家の正史である『黒田家譜』に、備前福岡との関係が記されています。その後、岡山の戦国時代を描いた『備前軍記』（1774年完成）にも同様の由緒が書かれました。これらの書物を通じて、黒田家と備前福岡の関係が現在まで伝えられることになったのです。

健康ライフ

健康づくり推進課
086-962-5061

「食育」で豊かな「心」を育む

「食育」という言葉を知っていますか。

食育とはさまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人を育てることです。

さらに瀬戸内市では、市の気候風土に興味を持ち、豊かな自然によって育まれる命の素晴らしさを知ることや、「食」を通じてコミュニケーションを図り、豊かな人間関係を築くことなど、「心」を育てるものとして捉えています。

地域での食育活動

市では、栄養委員会や公民館講座での料理教室、幼稚園・保育園・小学校で野菜を栽培



子ども料理教室

するなど、さまざまな食育活動を行っています。

今回は、食育を推進する土台となる、個人・地域組織・農業関係団体・行政が連携して行っている活動を紹介いたします。

玉津地区での取り組み

玉津地区の個人・地域組織と連携して食育に取り組むため、平成19年度に栄養委員・

子ども料理教室

平成24年度には、児童が小学校で栽培したトマトを使った料理教室を夏休みに開催しました。

トマトご飯をはじめ、瀬戸内市の特産物である冬瓜、そうめん南瓜、かぼちゃを使った料理が、出来上がりしました。また、瀬戸内市産の農産物クイズも行い、瀬戸内市の食を知り、味わえる教室となりました。

本年度の取り組み

小学校が閉校となった本年度からは、保育園、小学校から子ども会の代表者へとメンバーが変わり、地域の連帯感が薄れることを防ぐために、全ての世代が交流できる事業に取り組んでいます。

7月には、ふれあいそうめん流し大会を開催し、竹の準備から食材の確保、当日の料理まで、子どもから高齢者まで多くの人が関わりました。

地域の人から寄付された野菜がそうめんと一緒に流れるのを食べるなど、世代を超えて親睦を深めることができる会となりました。

11月には、生きる力を身に付けることを目的に、サバイバル料理教室を行いました。



ふれあいそうめん流し大会

これからの食育推進

地域の実情に合わせた食育活動を行うためには、さまざまな個人や組織が連携し、情報や意識を共有していくことが必要となります。そしてその取り組みが、地域づくりへとつながっていきます。

皆さんも地域づくり「食育」を取り入れて、世代を超えた絆を築き、豊かな「心」を育んでみませんか。